

1	言語
言葉の力をつけよう（音読2年③） 〔随筆「枕草子」〕	
名	前

★体験や読書などをもとに、それに対する感想や考えをまとめたものを「随筆ずいひつ」といいます。
「枕草子まくらのそうし」は約三百段から成る作品で、作者である清少納言せいしょうなげんが宮廷きめうていに仕えている頃に見たり聞いたことや、季節の感想、人生観などが簡潔な文章で鮮やかに描かれています。

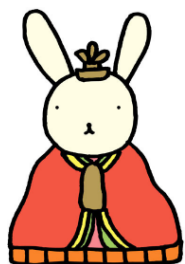
《解説》

雪がとてもとたくさん降った朝の出来事について書かれています。のんびりと朝を過ごしていたところ、お仕えている中宮定子様から突然の問いかけがありました。ほかにも女房たちがいる中、清少納言は素早く行動を起こしました。謎かけに応えた清少納言に対して、定子様は笑顔を向けられ、女房たちは、清少納言のすばらしさをほめたたえました。

やってみよう

◆古典作品は、現代文とは異なる言葉遣いがあり、主語が省略されていることがあります。繰り返し音読して情景を想像しながら、読み味わいましょう。

雪のいと高たかう降ふりたるを、例れいならず
御格子みかうしまゐりて、炭櫃すびつに火おこして、
物語りなどして、集まりさぶらふに、
「少納言かうろほうよ、香炉峰かうろほうの雪いかならむ」
とおほせらるれば、御格子みかうしあげさせて、
御簾みすを高たかくあげたれば、笑わはせたまふ。
人々も、「さることは知り、歌などにさへ
歌へど、思おもひこそよらざりつれ。
なほ、この宮みやの人には、さべきなめり」と言いふ。



《読んだ回数》

読めたら
色をぬろう！



- 登場人物
 - ・ 少納言
 - （清少納言）
 - ・ 人々
 - （女房たち）
 - ・ 宮の人
 - （中宮定子）
- 季節
 - ・ 雪 ↓ 冬